北雲美濃時代鏡十編後化畫

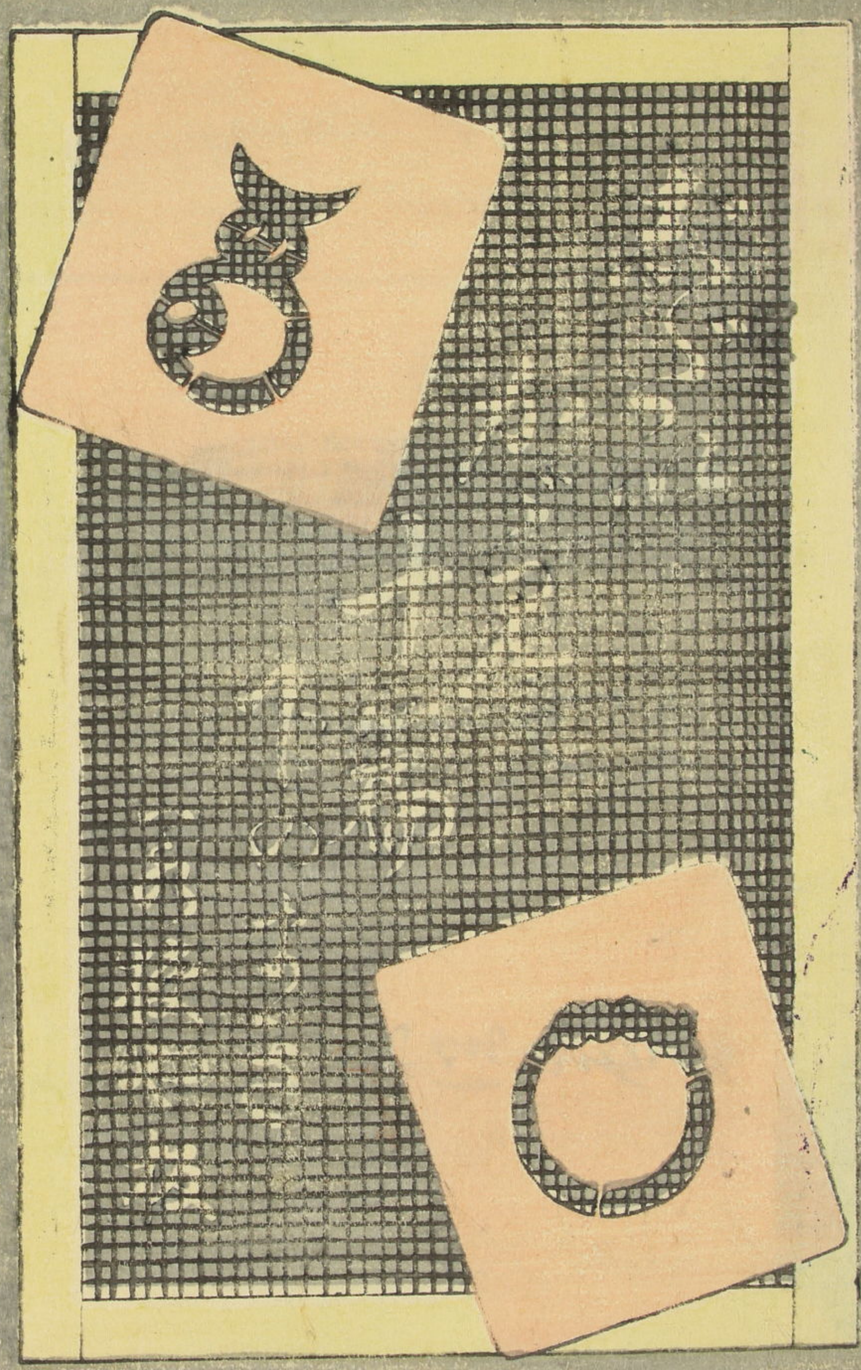
為弟水谷貞國畫

へ13
3756
4

時代十編上

春水作
国貞画

若林堂藏本



北雪美談
時代加々見
十編上
十編下
作題曲亥周忌

北堂の美談
時代鏡
十一編上
外題曲名一覽
十一編下

北雪美談時代加賀見
十二編上
春松きく
作題脇五周忌
子の芽
芳梅
芝ろくさ
孫棒
二編上

門へ13
3756
4

時代かゝ見

拾ヒ編下冊

為永春水作

一齋齋國貞画

芝神明前

英泉堂

古市

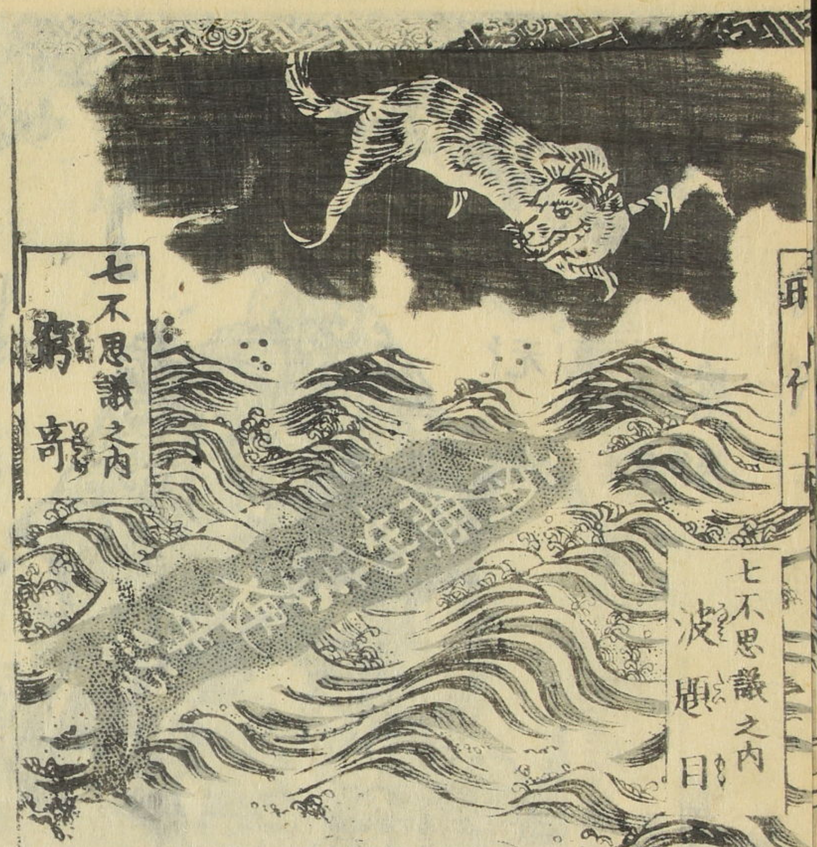
越後國七不思議

佐渡の讐の夫婦。が賀の話の越後ゝらゝ。要之助が新潟ゝ美女好屋とその混乱ゝ小萩ゝ毒キ小世ゝ。那如法寺の段ゝ七不思議ゝ言傳ゝ入方村の陰火ゝ焼酎火ゝ假用ゝ薄ゝ。ゝ〳〵の鳴物入ゝ。舞臺の左右の窓蓋ゝ。ゝ〳〵ゝ場の趣向ゝ。

七不思議之内 逆竹

七不思議之内 臭水油の噴井

上无流軒
魔女風
七不思議之内
三度栗
七不思議之内
八房の梅
婦人葉露
七不思議之内
入方村の陰火



七不思議之内
鶏龍

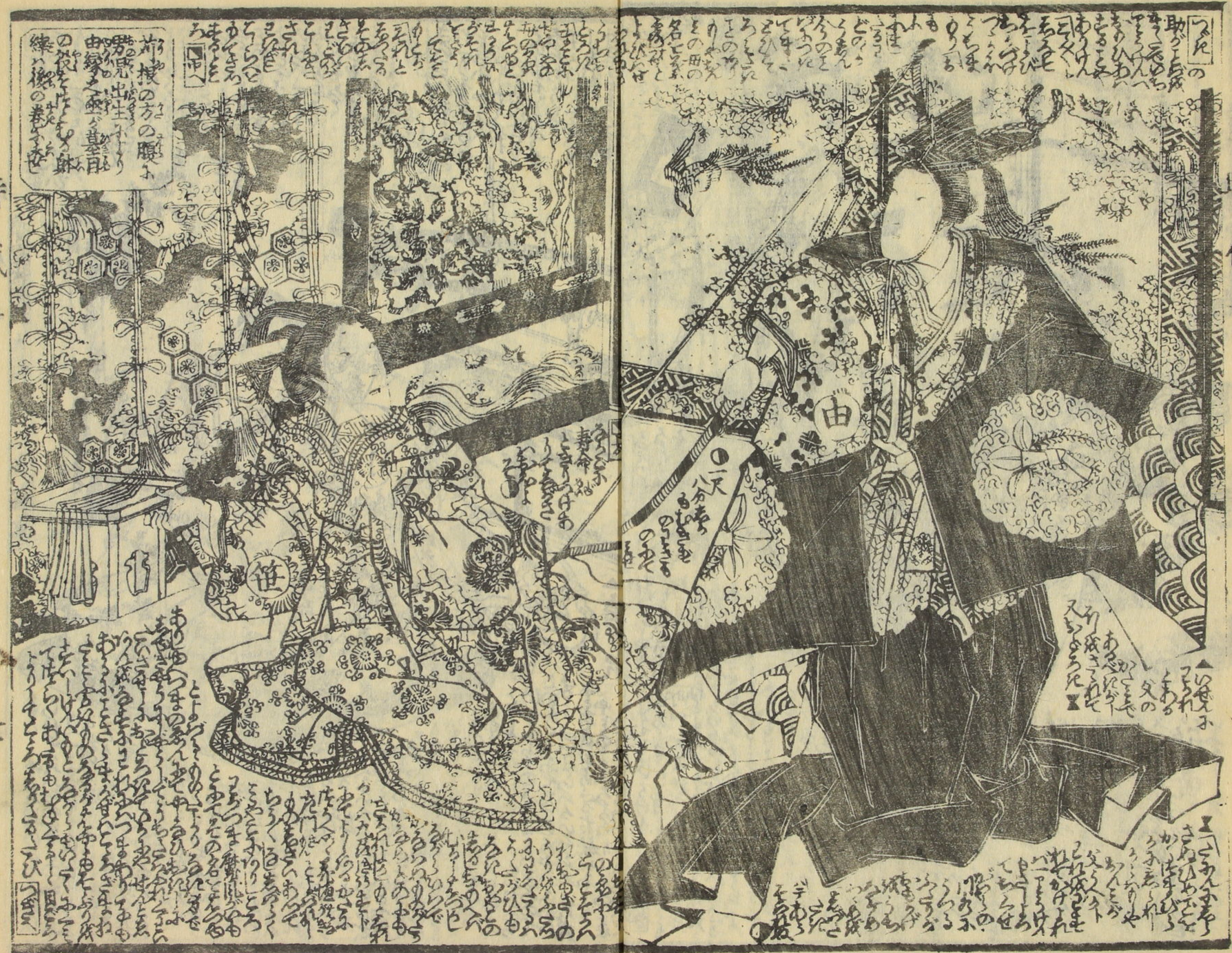
七不思議之内
波題目

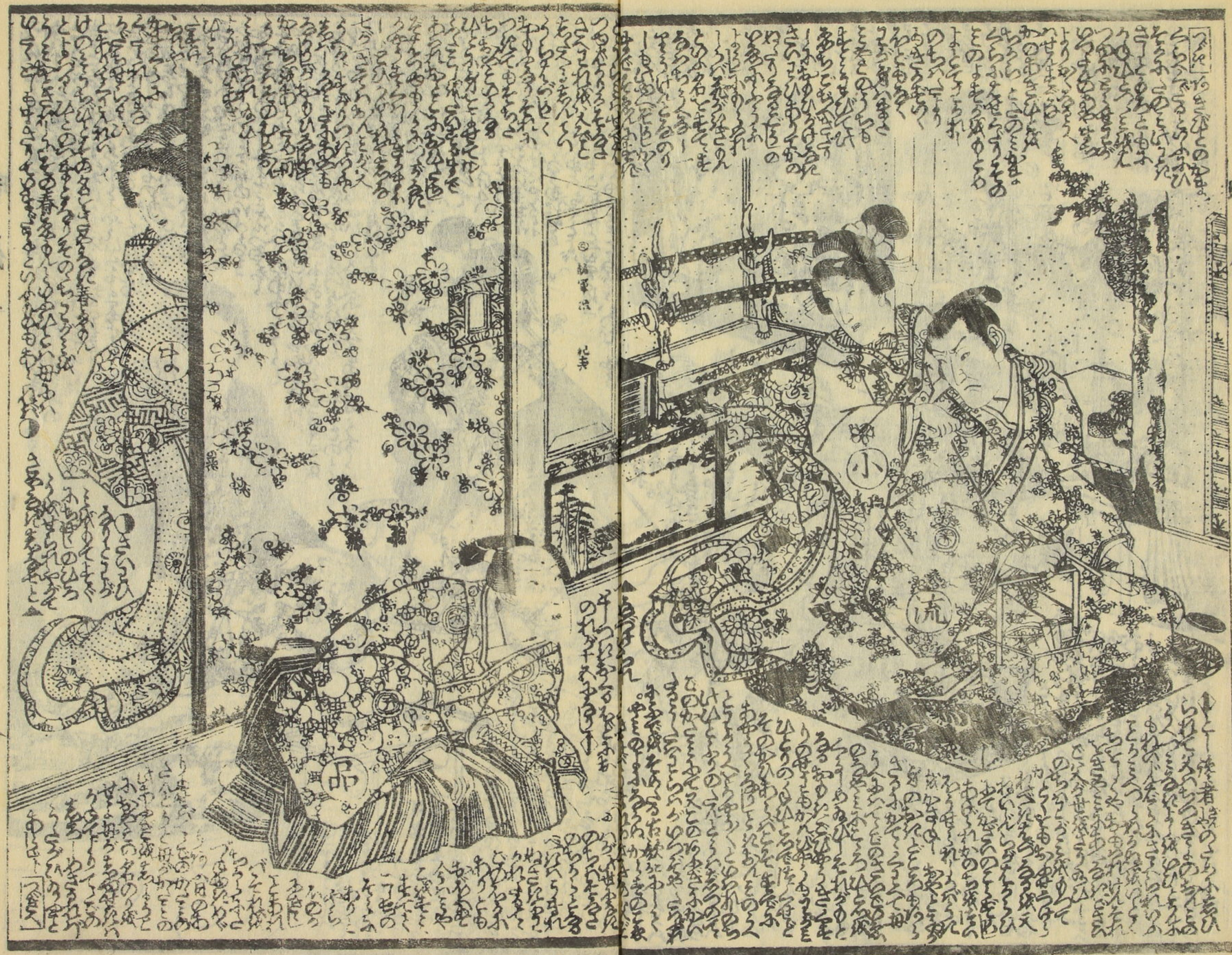
編中に見せまゐらせんと
豫め腹鳴置まゐらせ念い余
て紙員足らず
老者の
安ふ
七不思議と宣ふ頭の
山ふ描
ものまゐらせ。然ら予ごとの筆
思ふたまゐの細作とな
の森のまゐらせ。毎月
又一不思議の内
看官
安政四年
文久三夾春
新刻
再板
爲永春水記

流
要

色

流

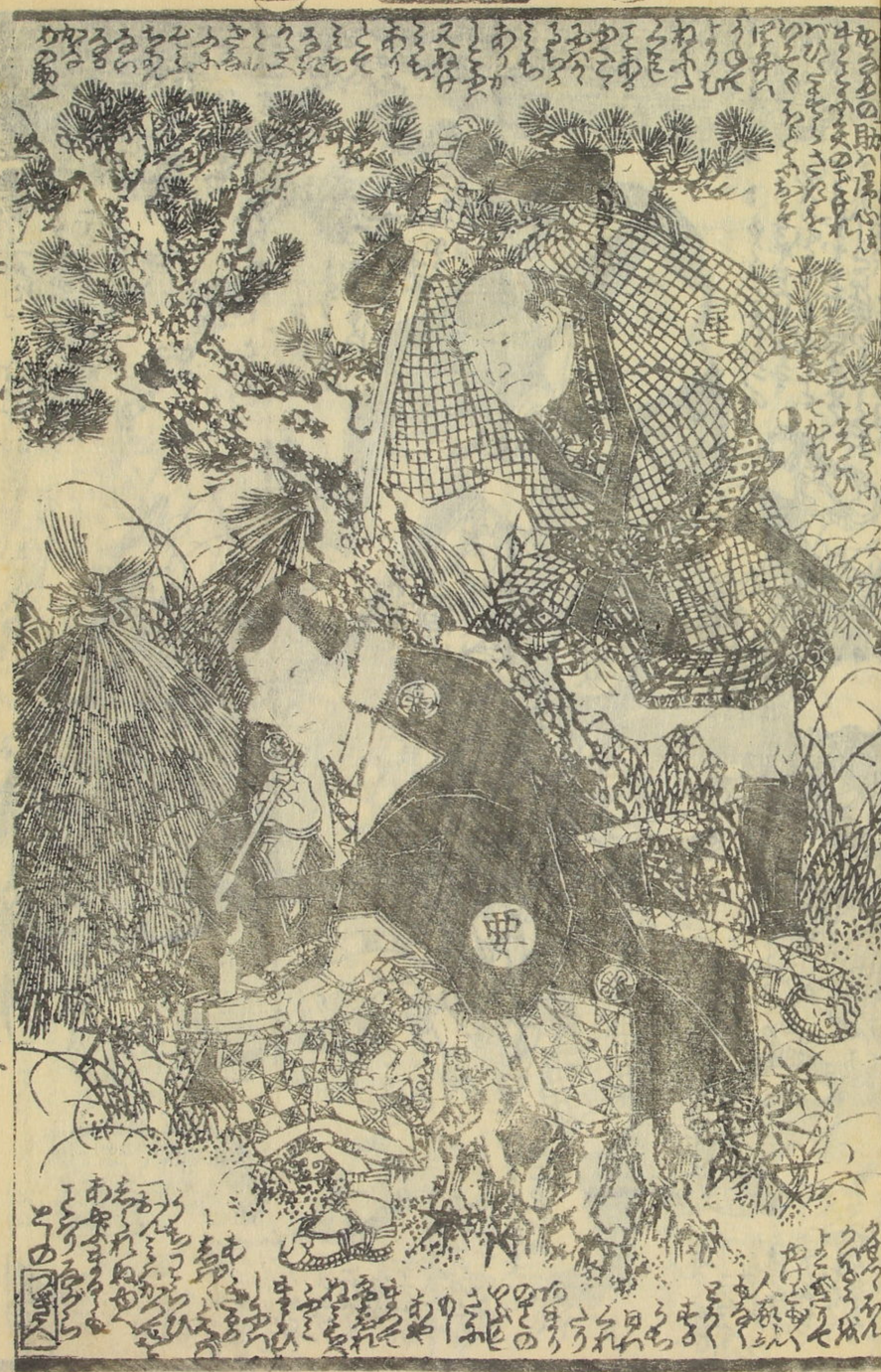

由
笹

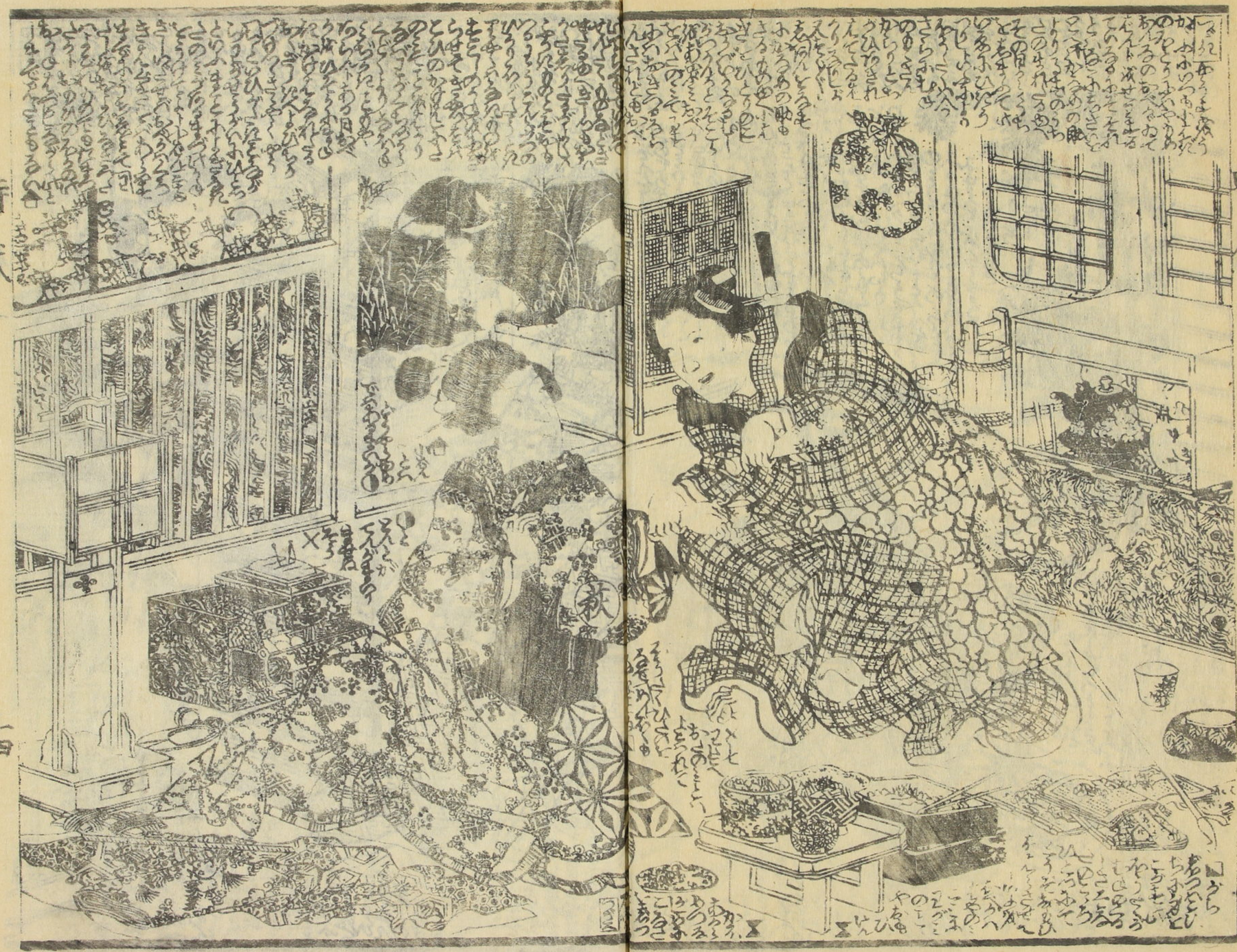

小
流
品
甘の

要
色
乾
遊

春水作

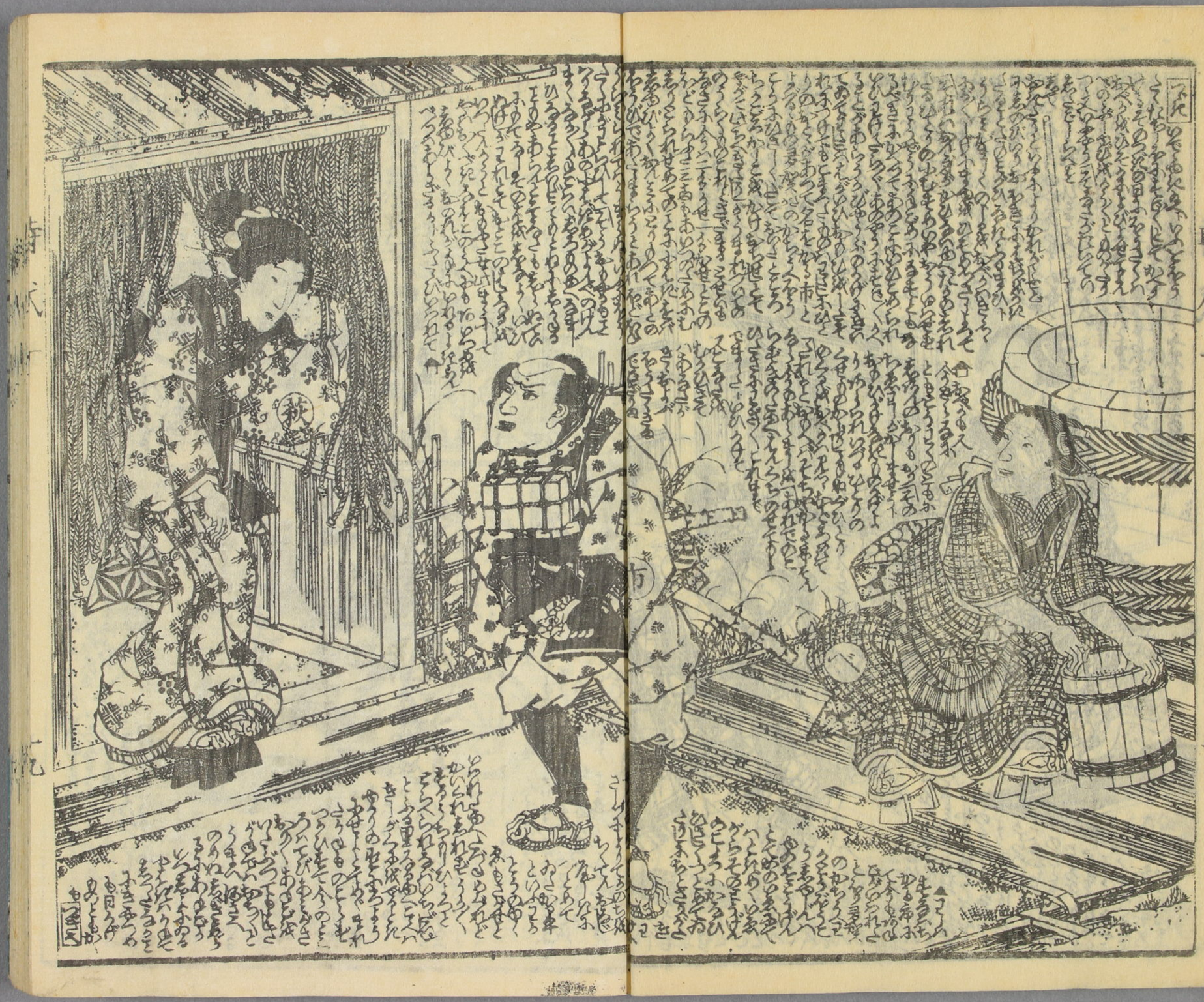
國貞画





蜂

蜂
市



朝鮮牛肉九一色朝貢一ひの紙もぎ色ひ
ちせとまんぬ米
ゐれぎ一ゆの人
ろく風そう
十谷ゝゝえゝ

爲永春水作　二壽齋國貞画

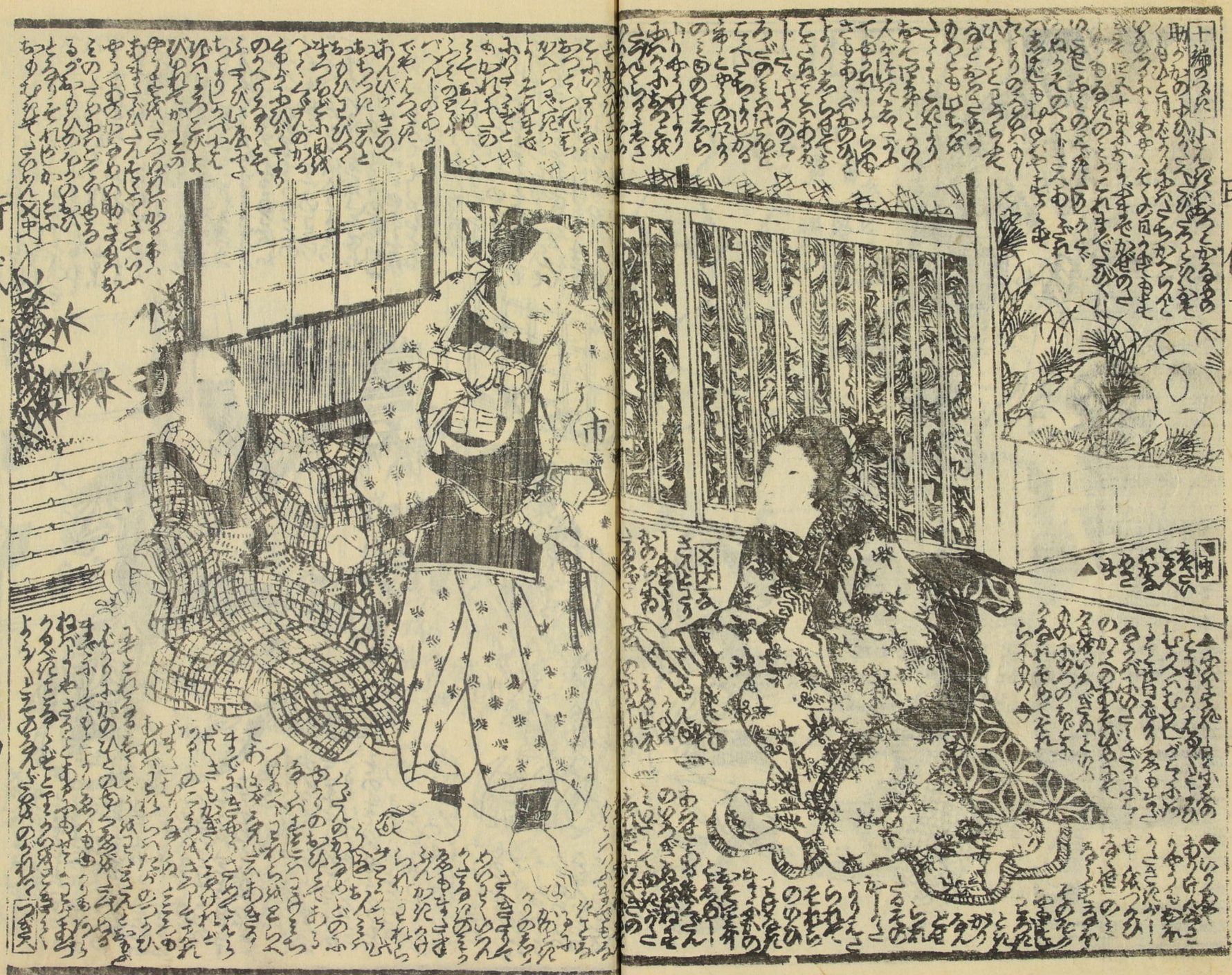
越後の國の七不思議の前の編の口画ゆ見ぜ一紙。
再び詰んもぐ〜〜しけれど就中かの蛍火ハ方村ゐる何某とうり。
何ゐの宅ゆも自由ゆ取ゐ〜く。夜泊油屋の門りとうり水の通ゆごと〜く。
ゐ庭ゆ今ゐ有りて是ゆ竹筒と架渡せ〜ゐ水の通ゆごと〜く。
ゐる故ゆ蜂沢等ゞ低る伎価ゐ也〜ゐるとも思ひのゐも多ゐと。重て
爰ゆ録せるの〜及窮奇ハ毒風ゆて全く氣形ゆ違ひのゐとも此風ゆ
者ハ或ハ手。或ハ足ゐど鎌ゆて自と伐られ〜と云ふ。瘋癲被ゐるゐとゐ。俚言も
あれど風の裡ゆ怪〜ゐ形状と描せゐる。這ハ咸僕ゐ扨撰ゐれとも雷獣雷
鳥ゆ〜ゐ念ハ。又ゐ〜ゐの〜定めゞ〜。具眼多識の鳳若子ゆ見ま〜ゐ
ゆ〜ゐ。例の麁漏ハ免ゆ

安政稔戊午初春新鐫

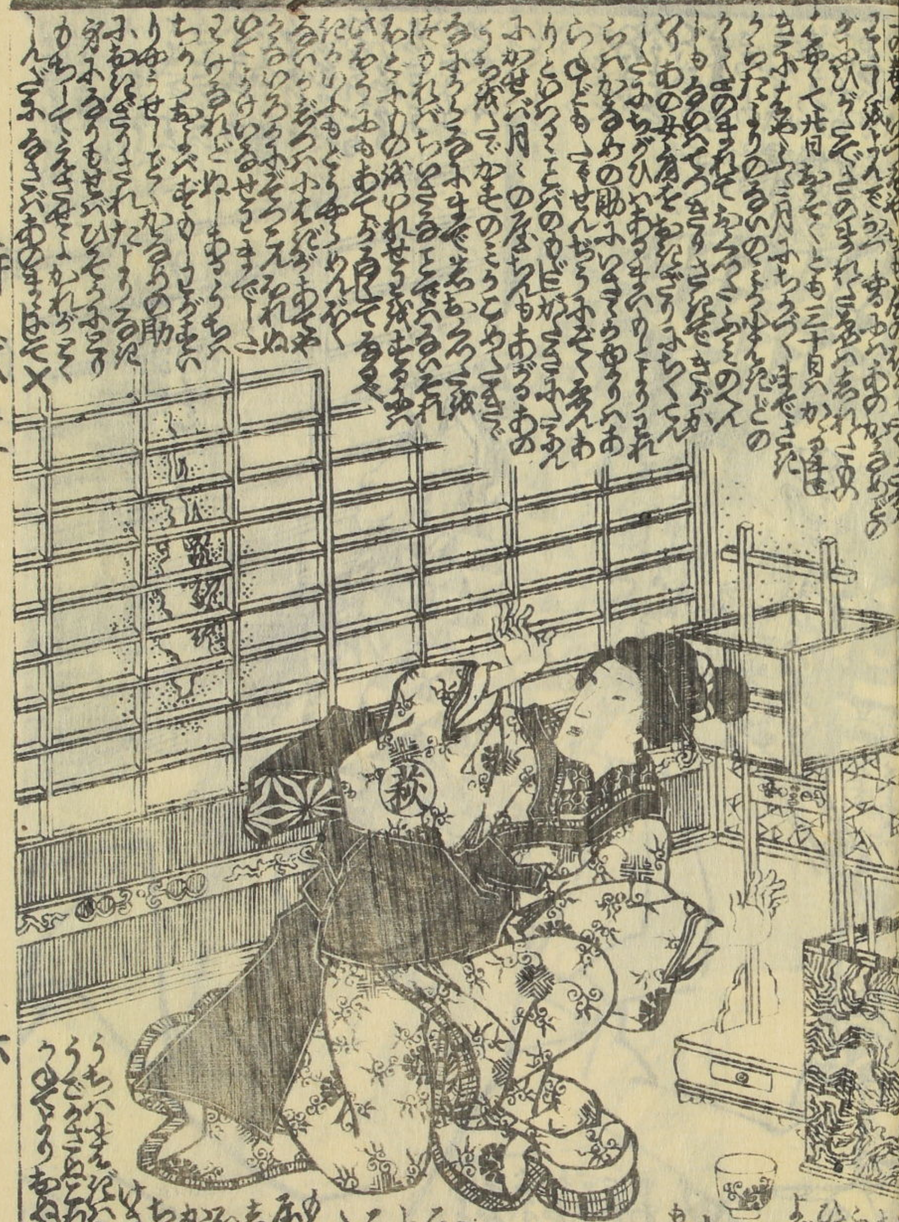
爲永春水記

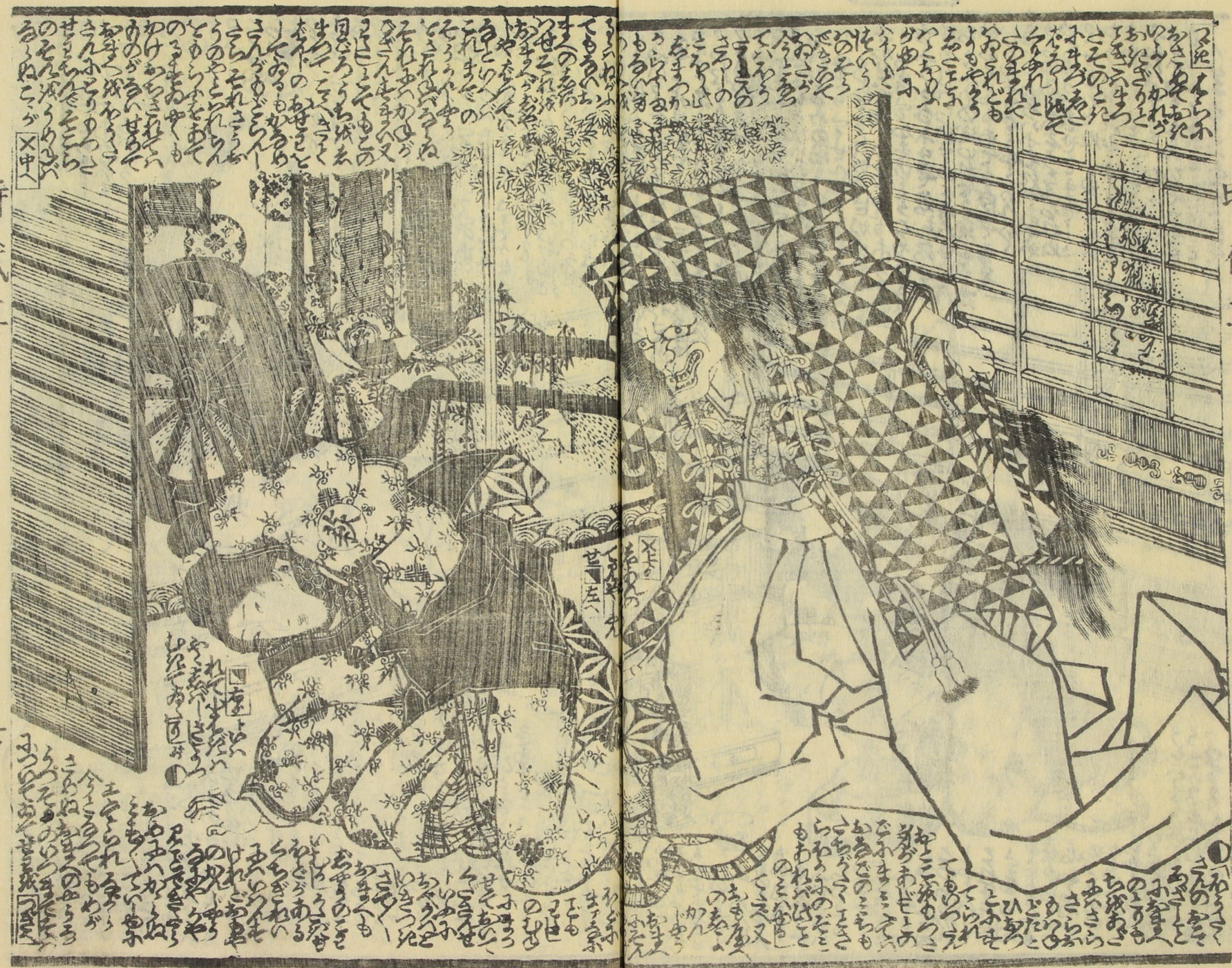
時代二

因果
十方
現今



市
蚊
蜂

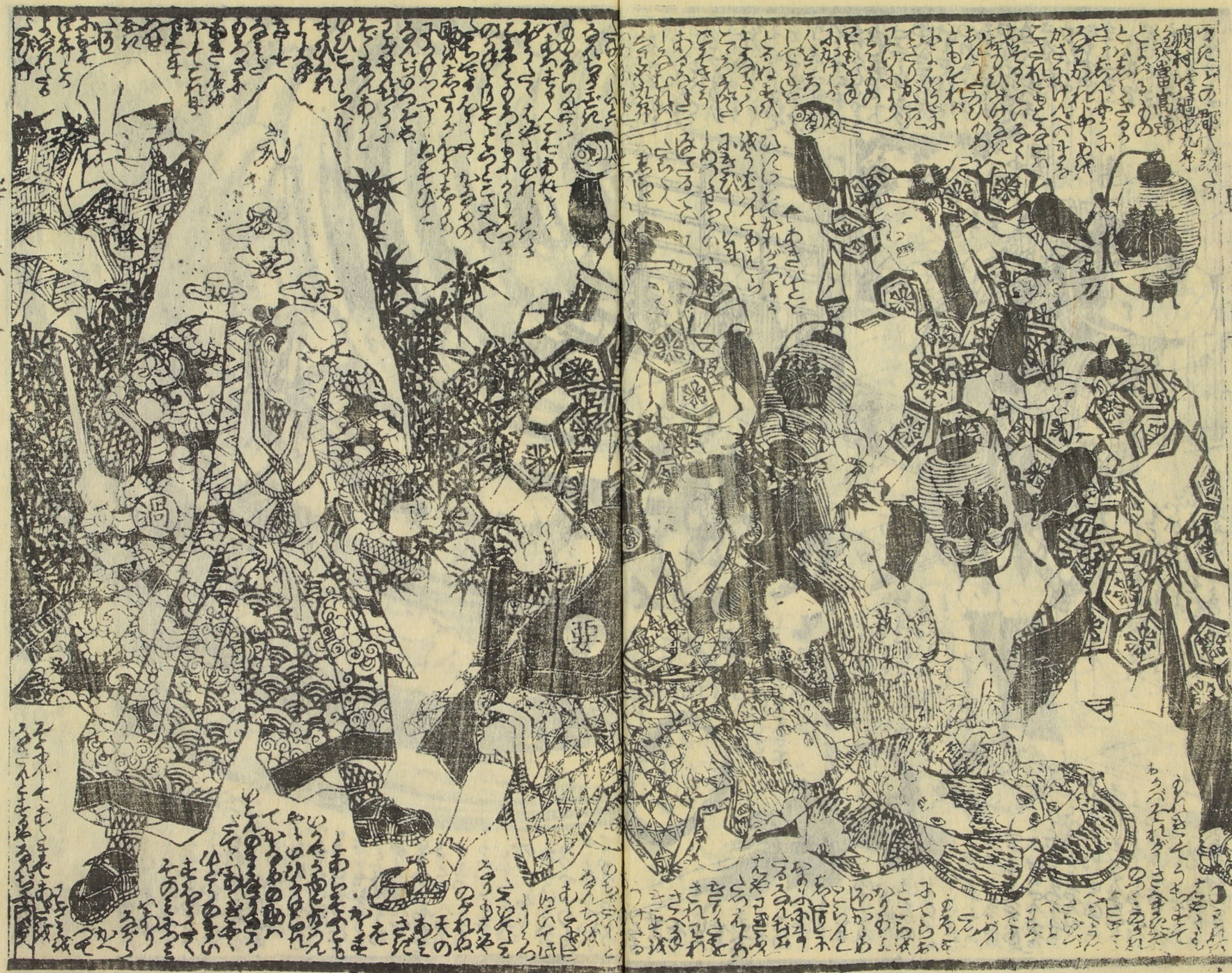

蚊

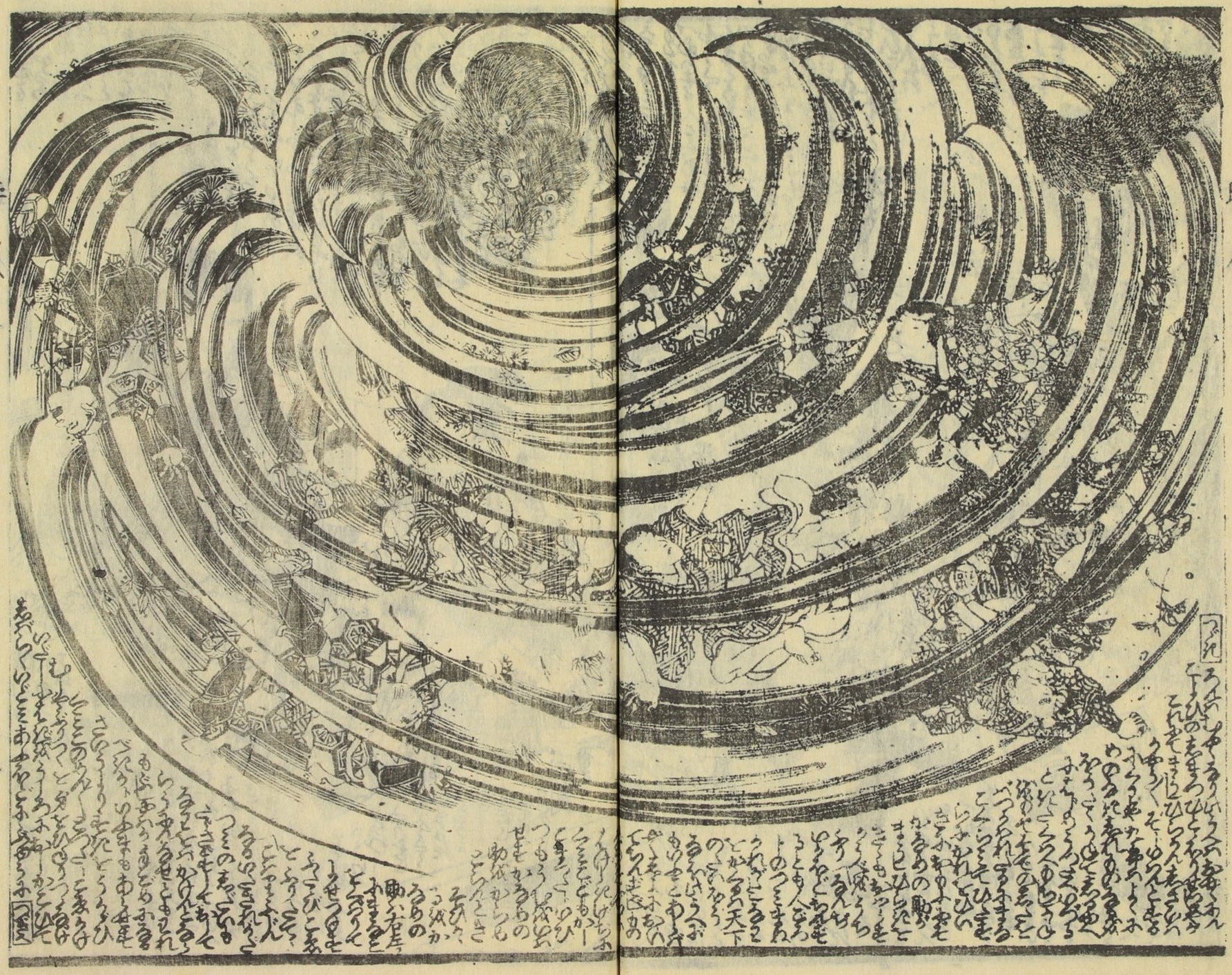


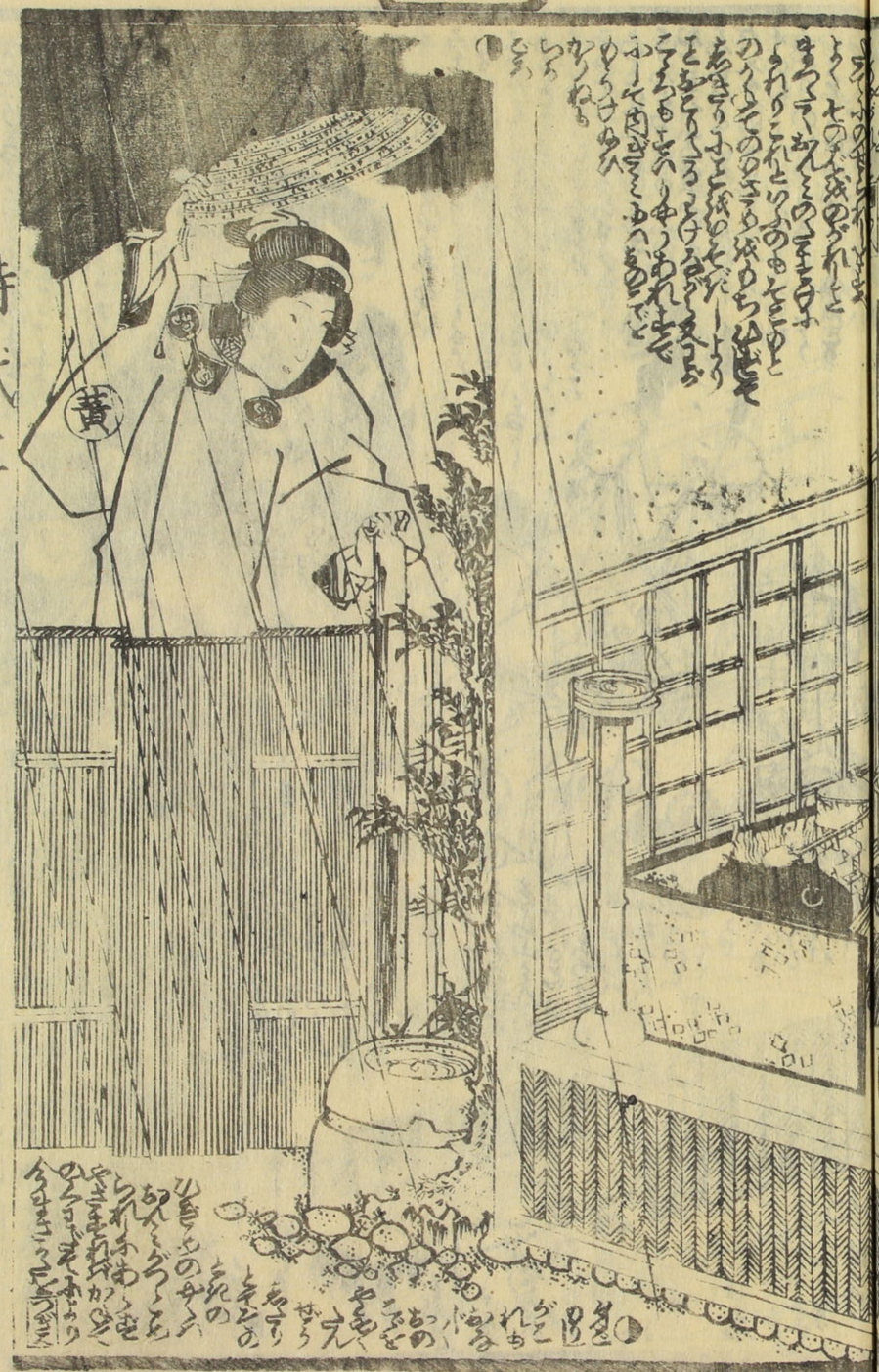
蜂
蚊
市

要
遅

春水作國貞画






黄

刀
西

笹
中

爲永春水作 梅蝶樓國貞画

傳説黄粱

南柯のそもく

夢の大指るゞく。

作者の机も及然り。

筆頭ふいくその

妄想を編出さん

と做ふいれば南柯

の虚穴より尚恢き。

紙中ふあく、生、世界。

黄粱熟く間ふ五十年の。

戊午孟春 爲永春水記

▲栄花ハもろく白粉

のその春秋とも時としてハ須臾ふも

綴る栄枯得失夫ハ邯鄲是ハ混沌さるれバ

由縁ゞ術譲りの夢ハさるても覚ゆゝ鼎が寐

言も一編何處で團圓するら茶ら一向夢中

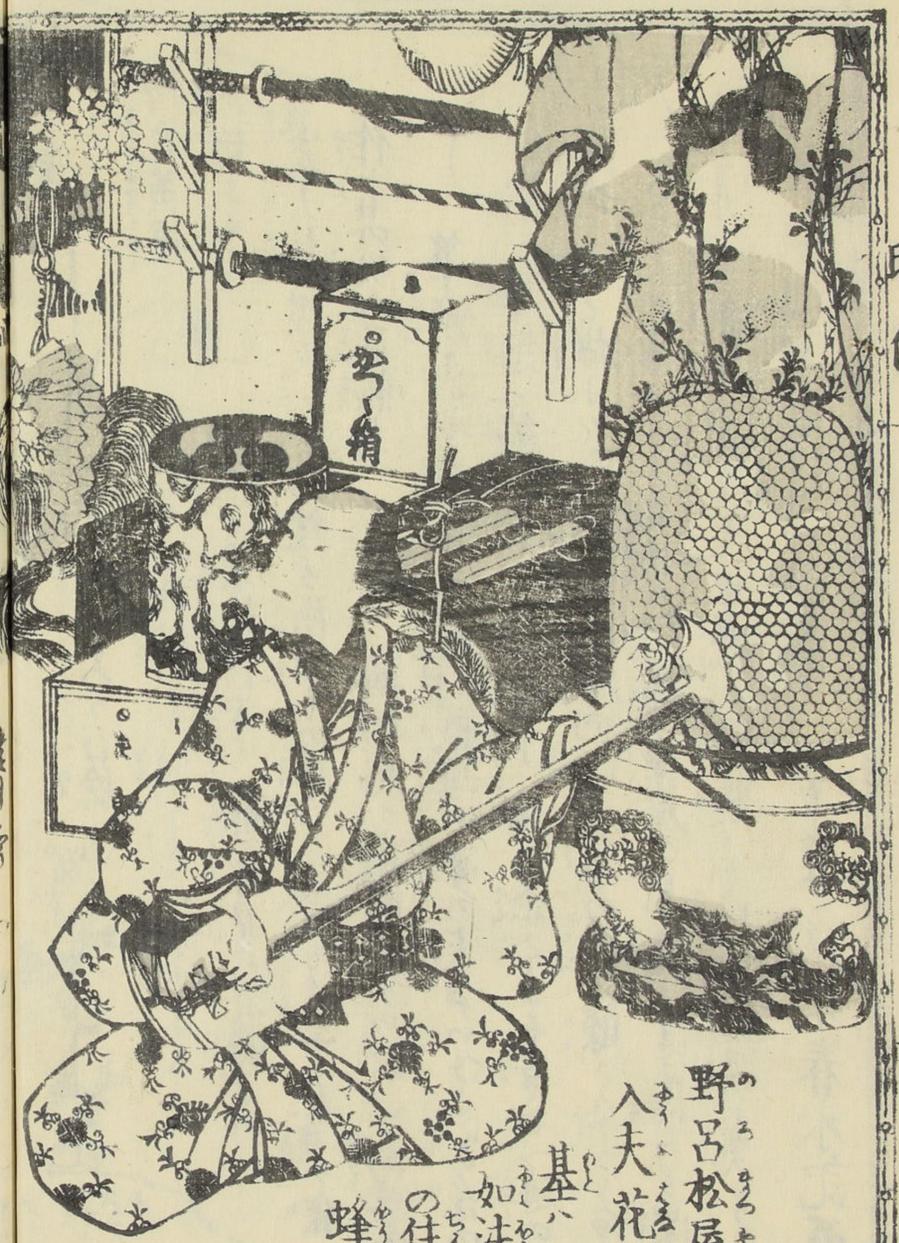
妄想ふ編出さん 作左門戯場の夢の夫るらひと心の糸の

と做ふいれば南柯 行るり小場の条とるを哀めへ迹の

の虚穴より尚恢き。 趣向と黒幕の裡ふ躯さんからまの。

腹の楽屋の見透くまを小做こり果

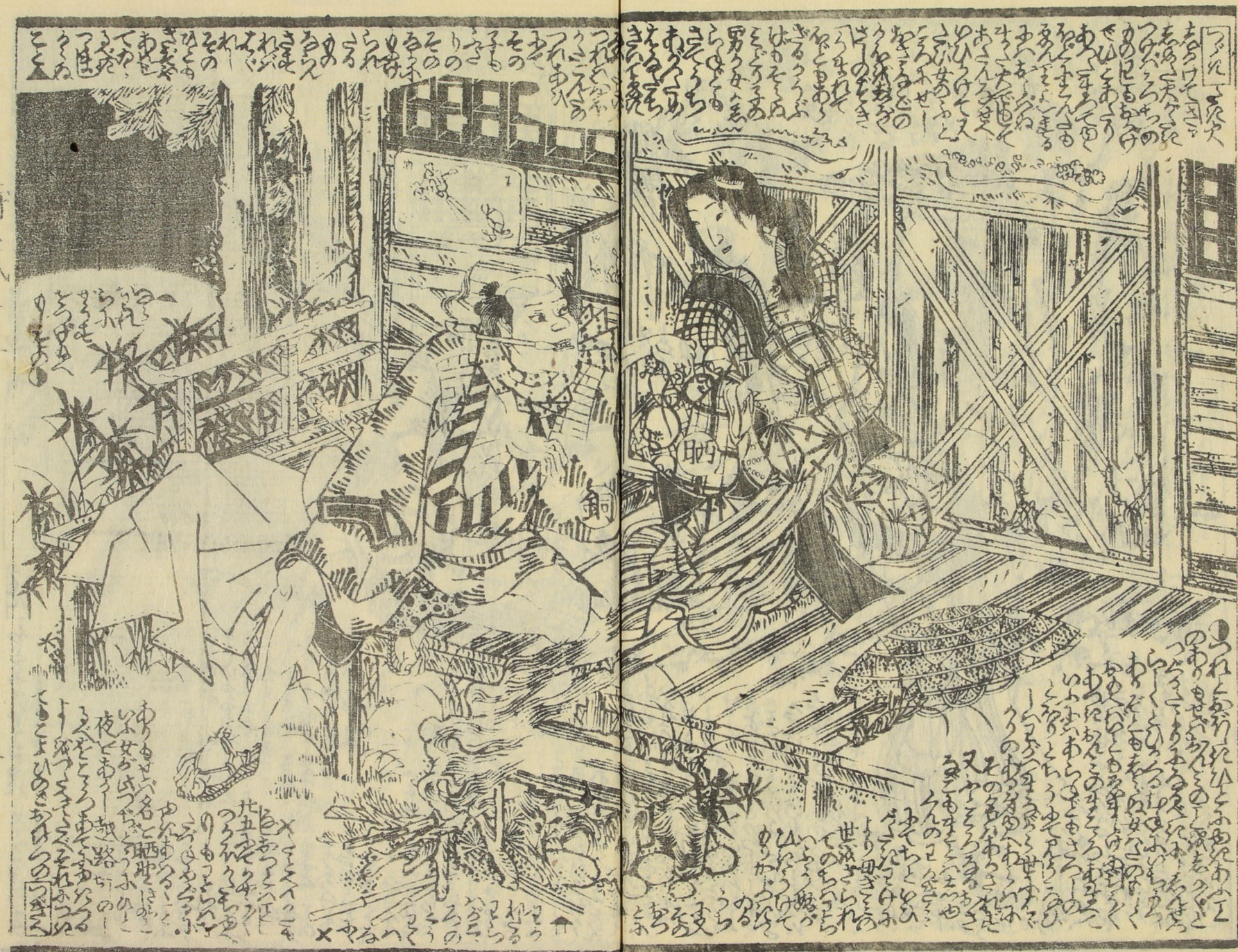
夢物ゞり。此上困らば模ふ咲せん。

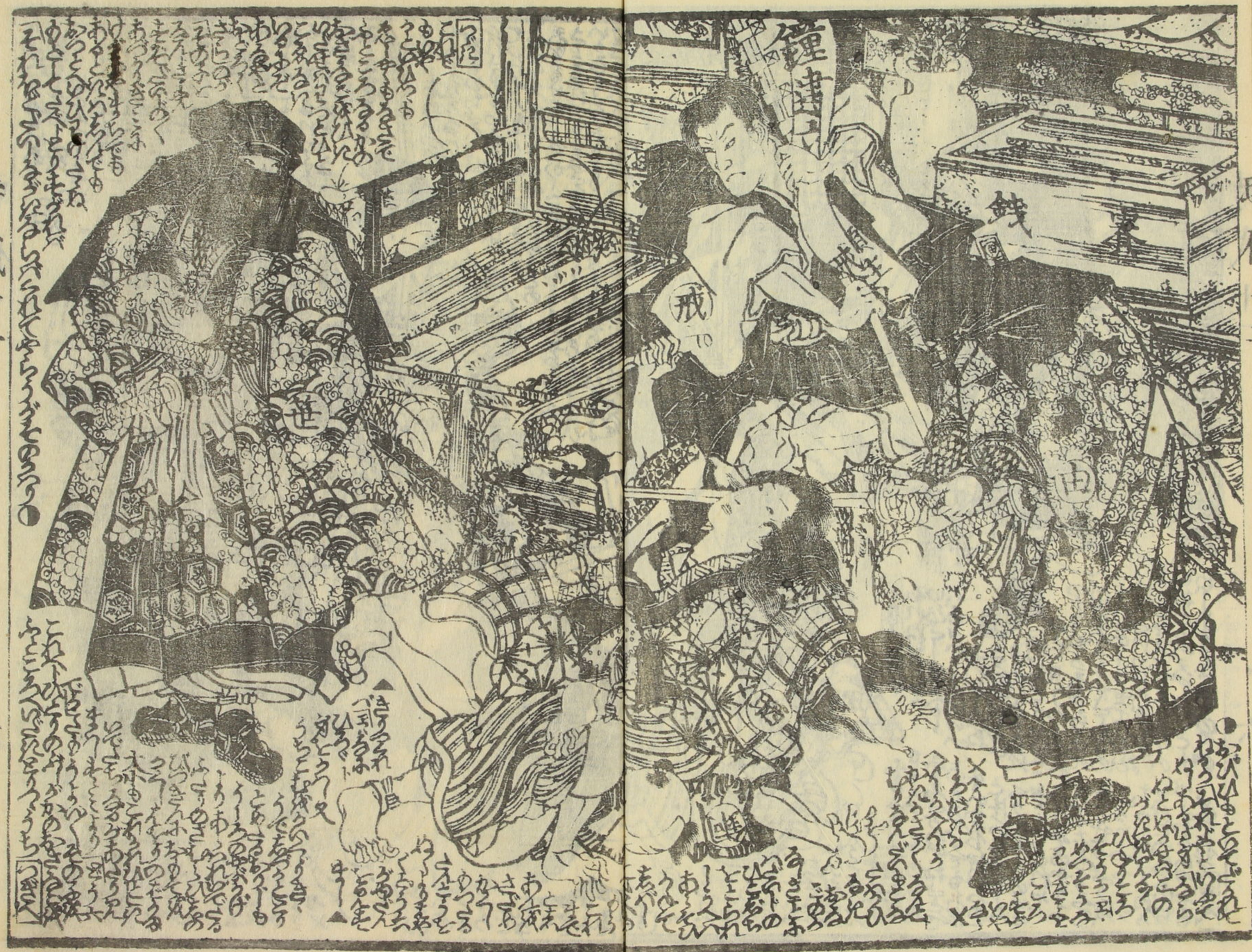

野呂松屋の
入夫花作
基八
如法寺
の住僧
蜂澤

遅四郎ダ後家
戸の花作の
女房
阿十字

時代
十二
品七の新婦
小波郎
惡漢
横嶋
世知平
墓所
杜氏
釜六
時代
十三

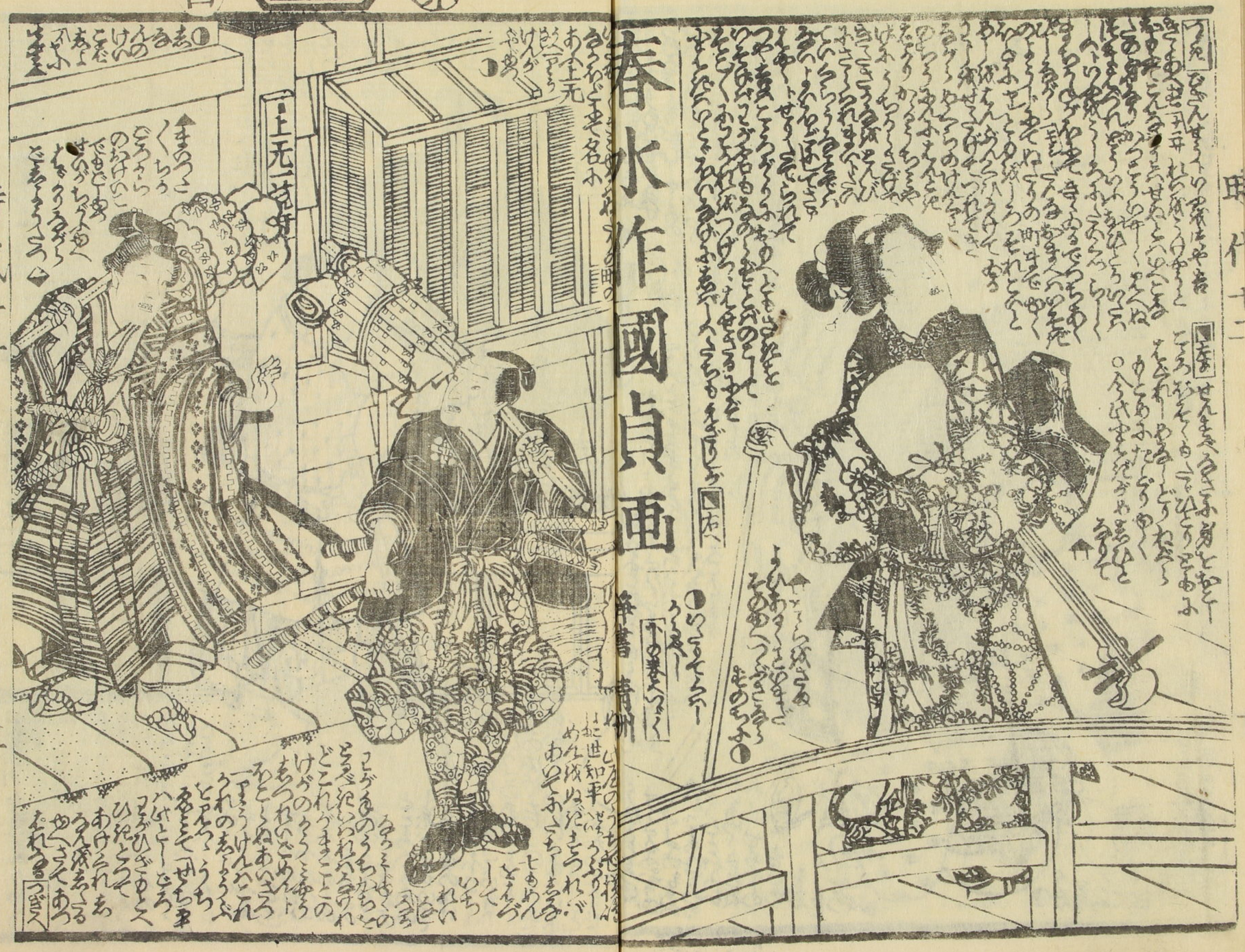
銅



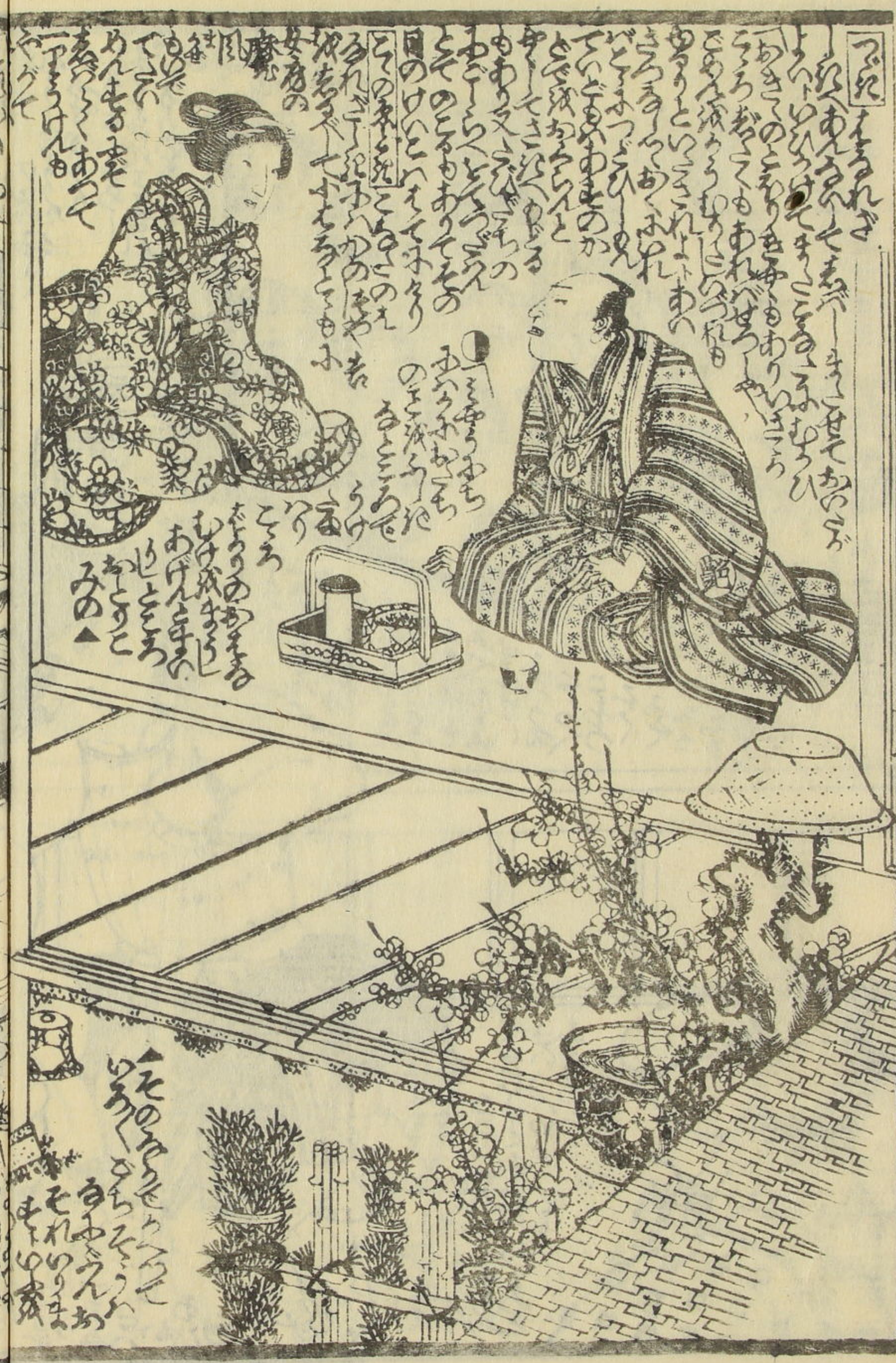

鐘
銭
戒
世

戒
由
芭

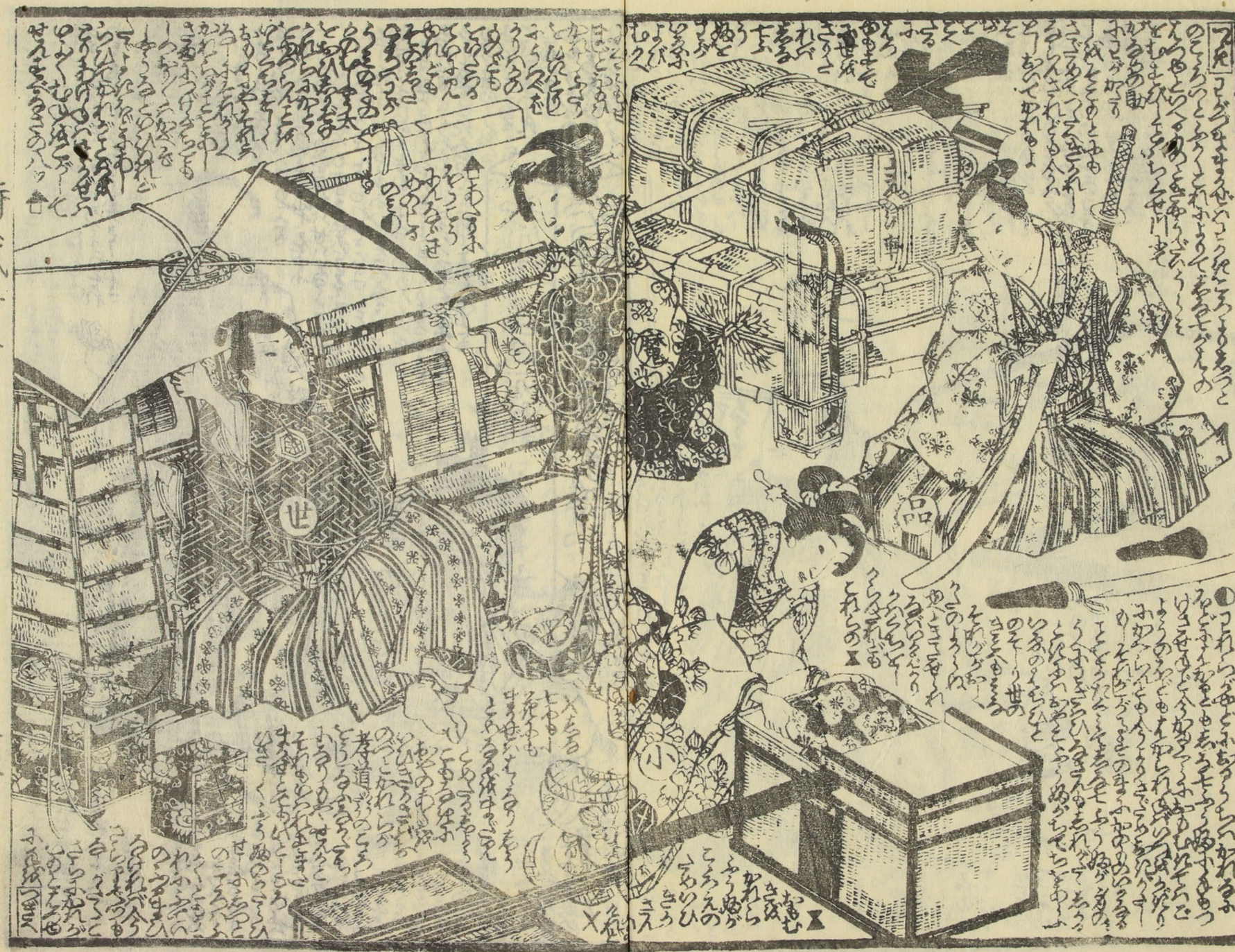
當十七月
一万部
大七日寺執事
秋


春水作
國貞画

流
品
世



時代十二
流
乾

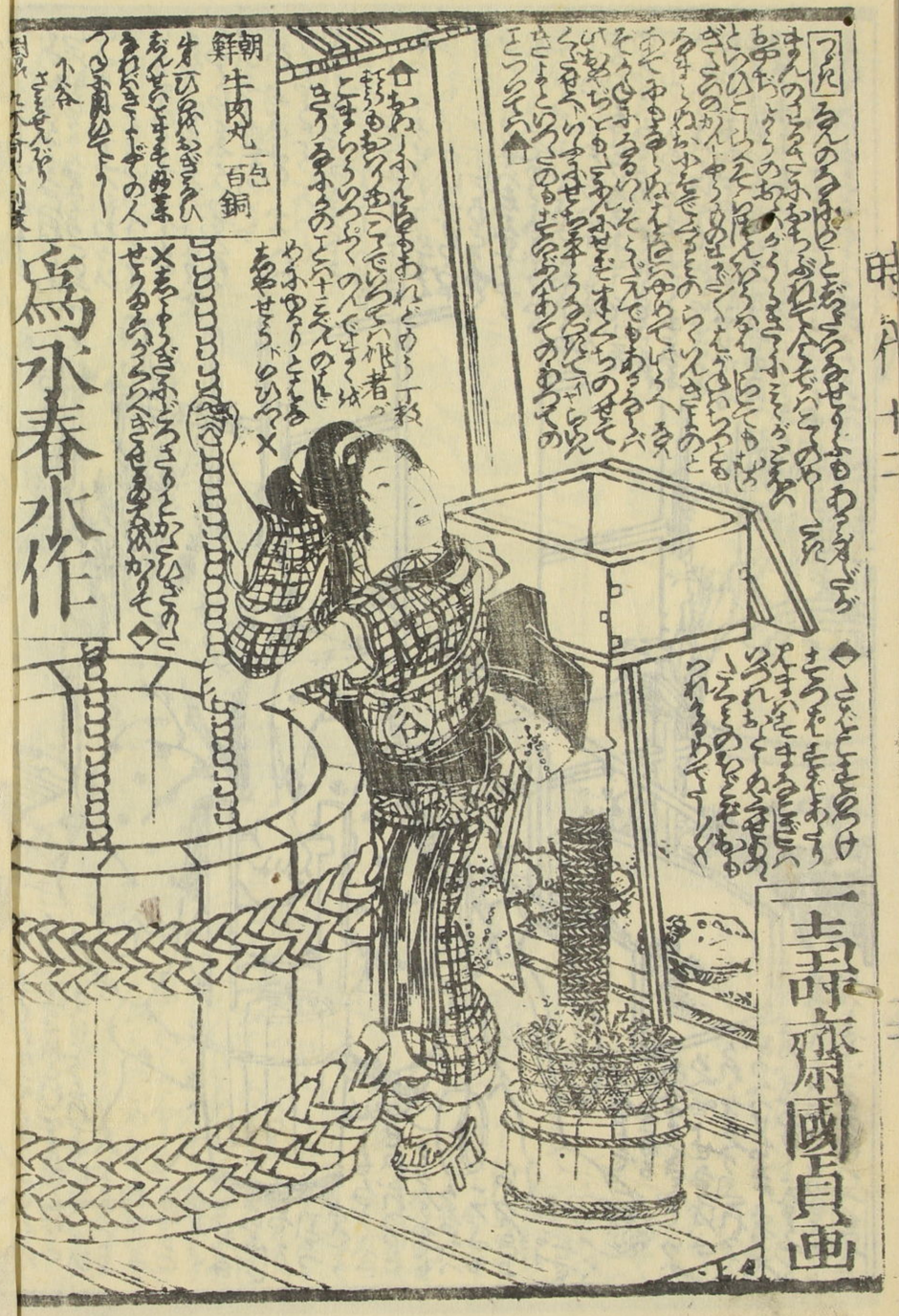

時代十三
世
品
小

流軒と見あらふ門前
品

石

世
小
谷
艷

世
金



慶應四戊辰年新刻目録

北雪美談 時代加賀見 三十八編 四十一編 爲永春水作 歌川國貞画

雜談雨夜質庫 六編 七編 出板 爲永春水作 歌川豊國画

池園物語 初編 二編 山々亭有人作 歌川國貞画

庭訓武藏鐙 六編揃 万亭應賀作 歌川國貞画

地本草紙問屋 芝神明前 若林堂 菊屋与市板

拾三編
春水作
國貞畫